

令和8年3月16日

久米島町長 桃原秀雄 殿

久米島町振興計画審議会 会長 小島 肇

第3次久米島町総合計画について（答申）

令和6年9月26日付け、久企第1125号により諮問のありました「久米島町総合計画」について、本審議会は慎重に審議を重ねてまいりました。その結果、本案は今後の久米島町が目指すべき指針として妥当であると認め、下記のとおり答申いたします。

記

1. 答申の結論

本計画は、本審議会の審議の過程で出された各分野における多数の意見のほか、町が実施した町民アンケートや職員・住民ワークショップ、町内関係団体とのワークショップ、パブリックコメントを経て検討した結果、提示された「第3次久米島町総合計画基本構想及び前期基本計画（第3次久米島町総合戦略）」は、町の最上位計画として今後の行政運営の指針となる内容であると判断する。

2. 計画策定にあたっての評価と留意事項

本計画の内容にあたっては、以下の点について高く評価し、着実な推進を求めるものである。

・将来像の継承と深化：これまでの「夢つむぐ島」という理想を継承しつつ、「夢つむぐ島－未来につなぐ久米島らしさ」を新たな将来像に掲げ、久米島のアイデンティティを再定義した点は持続可能な島づくりにおいて極めて重要である。

・「久米島らしさ」を核とした戦略：人口減少と少子高齢化社会という厳しい現実に対し、「久米島らしさ」を活性化の原動力とし、SDGsが目指す「持続可能な開発」と調和させた点は、離島ならではの独自の価値を高めるものとして評価できる。

- ・具体的かつ意欲的な目標設定：2035年の将来人口を6,500人、1人当たりの総生産額を760万円とする目標（将来フレーム）を設定し、若者が戻りたいと思える雇用創出と産業活性化の「好循環」を目指す姿勢を支持する。

- ・住民参画の重視：中高生や子育て世代、各産業団体とのワークショップを通じて得られた現場の「夢」と「リアル」な声を計画に反映させた策定プロセスは真に町民に寄り添った計画づくりとして意義深い。

- ・重点的な施策展開：分野を横断する5つのリーディングプロジェクトとデジタル技術を「道具」として使いこなす「デジタル構想」により離島特有の課題解決と新たな価値創造を図る体系は時代の変化に即応している。

3. 今後の行政運営への期待

本計画は、町民・事業者・行政が一丸となって歩むための「道しるべ」である。特に中高生から提案された「働きがいのある島」や「自然を守る」といった切実な想いに、大人が本気で向き合い、各施策に設定されたKPI（数値目標）の進捗を厳格に管理しながら計画の実現に邁進されることを強く期待する。

以上